もっと詳しく!
ナース★ワゴン+α
2023年4月 No.85

## 1年目看護職員 成長の足跡

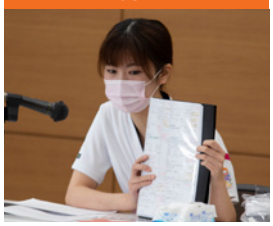
# 概念化シート・ポートフォリオ発表会の記録

2023年2月22日

勤医協中央病院看護部では、全看護職員がポートフォリオを使った「振り返り」に取り組み、自己の看護技術や看護実践の記録を確認しながら意欲向上につなげています。1年目看護職員は「概念化シート」に看護実践で得た課題や学びを記述し発表し、看護過程を理解し、看護の質を向上させる目標を見いだし、さらなる成長への推進力にしています。

## 血液浄化センター

### 宮竹Ns



血液浄化センターの看護師の役目は、透析中やその前後の患者さんのようすを観察するだけではなく、帰宅方法や帰宅後の体調なども聴取することが大切だと感じています。自宅での過ごし方などを聞き取るために患者さんと積極的に会話し、打ち解けながら信頼関係をつくることができるように丁寧な話し方や聞き方を意識しています。透析前後や止血確認時に患者さんの思いを伺い、個々人への対応や配慮ができるようになりたいと思っています。

**先輩からの応援メッセージ**　主体的に考えながらケアし、指導者にも相談してくれました。いろいろな経験を重ね、レベルアップしていくことと思います。これからの成長も楽しみです。

### 薮内Ns

心電図の学習会以降は、電極装着もできるようになりました。長年透析している患者さんから「体重について、医師と考えが合わない。頑張っているのに認めてもらえない」という発言があり、患者さんには「頑張りを認められたい」という思いがあることを知りました。患者さんへの理解を言葉にして伝えるようにしたところ、問診時にお礼の言葉を言ってくださるようになりました。患者さんの気持ちを引き出しながら、看護したいと思います。

**先輩からの応援メッセージ**　着実に成長し活躍してくれています。患者さんの気持ちを引き出すのが上手です。患者さんが何を求めているかを考え、それを反映できる看護に取り組んで欲しいと思います。

## 救急センター

**佐藤（花）Ns**

フィジカルアセスメントの資料を日々の業務で活用しています。上部消化管出血と胃潰瘍がある80代女性には入院治療が必要でしたが、拒否の意思表示がありました。初めての入院拒否に戸惑いましたが、理由を聞くと「独居で飼い猫がいる」と心配されていたので、猫を預けられる人を一緒に探しました。関わる時間は短いですが、患者さんの生活背景や家族、キーパーソンなどの情報を得て、患者の不安や思いに寄り添う看護をしたいと思いました。

**先輩からの応援メッセージ**

知識や技術を深めるために積極的に学んでいる姿がありました。看護師だからできること、看護師だから支えられることがたくさんあります。これからも頑張ってください。

**佐藤（優）Ns**

外来で輸血を受けている白血病の患者さんの状態が急変し、救急センターに運ばれてきました。外来輸血時には知らなかった患者さんの生活背景や家族の不安を聞き、普段は業務的な声かけしかできていなかったことに気が付きました。不安や心配事の中で、医師に相談できることを一緒に整理しました。救急は救命が第一ですが、患者さんだけではなく、家族への精神的なフォローも重要視した看護を展開させることを意識したいと思っています。

**先輩からの応援メッセージ**

初めての体験の連続に戸惑いながらも、日々成長しました。悩んだ時期、つらい時期を乗り越えて得た成果を、これからの糧にして頑張ってください。

## 4東病棟

**山内Ns**

肝内胆管がんの患者さんの病状が悪化し、家族面会が行われました。患者さんはご主人が手を握ると笑顔になりました。その笑顔を見て、患者さんにはそれぞれに暮らしがあり、大切にしている家族の存在があると感じました。病態理解だけでなく、生活者の一人として認識して患者さんに歩み寄り、それまでの人生や思いを知った上で、必要な看護は何かを考え、テンプレート化したケアではなく個別性のあるケアを提供したいと思いました。

**先輩からの応援メッセージ**

忙しい業務が続く中で、看護師として「患者さんに寄り添うこと」「家族の支えの大切さ」に気付けたことが、これからもより良い看護をめざせる力になると思います。

**山木Ns**

転倒・転落予防のために抑制を行っていた高齢女性の患者さんがテーブルロックを外して欲しいと怒り出したため、ロックを外し見守りを行いました。完全自立ではない患者さんを初めて受け持ち、抑制と安全の両立に葛藤がありました。安全を第一に考えると抑制は必要ですが、精神的苦痛が生じます。安全・安楽な療養生活のために、制御を最低限にしたいと考え、動き出しがある時は抑制の必要性を説明し、患者さんの思いも傾聴しました。

**先輩からの応援メッセージ**

患者さんに寄り添う看護を大切にしていることが、日々の業務で伝わってきます。抑制についても日々感じたことを発信し、チームで一緒に考えていきましょう。

**水上Ns**

初めて受け持った肝動脈塞栓術の患者さんへの前日説明で、「分からないけど大丈夫」と言われ、分かりやすく説明ができるようになりたいと学び直しました。脳症を繰り返す患者さんにフリー業務で関わった時には「もう、眠らせて欲しい」と言われました。その言葉を聞いて、病状観察に必死で、患者さんの気持ちを知ろうとしていなかったことに気が付きました。治療前や退院前など不安が強くなる場面で、気持ちを傾聴できる看護をしたいと思っています。

**先輩からの応援メッセージ**

退院後の患者さんの生活を視野に入れた看護ができるように成長しました。ポジティブな明るさが強みですが、つらい時はつらいと言ってもいいので一緒に頑張りましょう。

**吉尾Ns**

見守り中の患者さんが転倒しました。下肢の浮腫と腹水がありましたが、40代と若く「トイレまで歩ける」との発言があったので、転倒時に支えることができませんでした。すぐに支えられるように、腰に手を当てながら見守るなどの対策が必要でした。患者さん一人一人の変化する病状を把握し、広い視野でリスクを考え、それをチームで共有する大切さを感じました。患者さんの意思を尊重しながら、安全を守れる看護を提供できるようになりたいと思いました。

**先輩からの応援メッセージ**

経験を生かして、めきめきと成長しています。焦っているようでも、落ち着いて見えます。でも、困った時には自分から発信することも大切です。一緒に頑張りましょう。

## 6東病棟

**小野寺Ns**

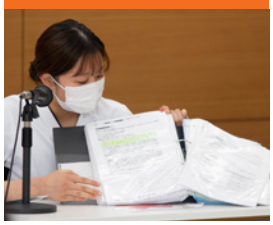
80代の患者さんが朝方に看取りとなり、息子さん2人は間に合いませんでした。「最期まで我慢強く、頑張っていました」と伝えたところ、「お母さんらしい」と笑顔で対応してくださいました。看取り前から患者さんの様子を家族に電話で伝えていました。変化する病状を伝えることが家族の心の準備につながり、看取りに間に合わなかったとしても悔いが残らないグリーフケアになると知りました。これからも患者さんと家族をつなぐ看護を大切にしたいと思っています。

**先輩からの応援メッセージ**

今、実践しているケアの意味が、患者さんにとって、家族にとって、どういうことなのかを考えながら、気付きを生かし、看取りケアの実践を重ねていってください。

## 6西病棟

**村上Ns**

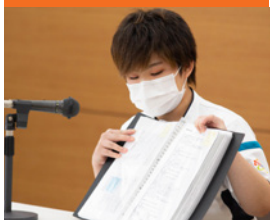


化学療法中の患者さんが個室のトイレで倒れた後に亡くなりました。採血や配薬で関わっており、当日の配薬時に「飲めるかな」と呟いていました。体調が悪かったのかもしれませんが、お話を聞かずに服薬介助だけしました。不安を受け止められなかったことが心残りです。患者さんの小さな異変や訴え、SOSに気づき、ゆっくりと向き合うことが必要な場面もあると知りました。個別性のある看護ができるように成長したいと思います。

**先輩からの応援メッセージ**

一生懸命に勉強したことを実践に生かし、主体的に考えられるようになっています。自らの気づきを発信もできます。このまま頑張って成長してください。

**遠谷Ns**



肺炎疑いの患者さんの病状が良くならないことから再検査したところ、膵臓がんの肺転移が見つかりました。前向きに治療を頑張っていた方でしたが、医師から「もしもの時の延命について」の説明を受けた後に泣いていました。ICに同席していた私は何もアドバイスできませんでした。患者さんの立場になって考えるためには知識の獲得が必要であると実感しました。忙しい日々ですが、患者さんの思いに寄り添える時間をつくりたいと思いました。

**先輩からの応援メッセージ**

ICの時は、患者さんや家族より落ち込んでいたようでした。業務が多くて大変ですが、患者さんの言葉や思いを聞いて、心に寄り添うことを大切に一緒に頑張っていきましょう。

**畑田Ns**

「息苦しい」と訴える患者さんの酸素濃度を測っても正常値で、背中をさすることしかできませんでした。呼吸苦の原因を知りたくて話を聞いたところ、「一人で個室にいるのが寂しい」と訴えられました。訪室回数を増やし、トイレや食事の離床にも関わりました。同じ疾患でも患者さんによって経過や苦痛の程度はさまざまです。患者さん一人一人の病態を理解し、性格や価値観を捉えて、個々人に必要な看護を提供することが大切だと感じました。

**先輩からの応援メッセージ**

背中をさする対応ができたことを嬉しく思います。患者さんに寄り添う看護を実践し、一つ一つ積み重ねてくれています。一人で頑張り過ぎないようにして進みましょう。

**金子Ns**

肺腺がんの患者さんの呼吸状態が悪化し、呼吸苦を訴えるコールが頻回になりました。麻薬を投与することになり、指導者さんと準備し副作用についても学習しました。投与後は呼吸苦が改善し表情も穏やかになりました。終末期の場合は、入院中の経過をその都度、家族に電話で伝え、看取りになった際の希望を確認する必要があります。日頃から患者さんとの会話や家族とのつながりを大切にしながら、両者の不安を和らげる看護を実践したいと思っています。

**先輩からの応援メッセージ**

患者さんとの関わり方が丁寧で、思いを上手に引き出せていると聞いています。必要な学習は何かを自ら考え習得し、できることが増えましたね。これからも期待しています。

## 2東病棟

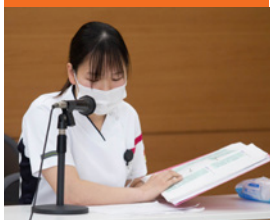
**吉田Ns**

退院の目途が立ち意欲的にリハビリしていた患者さんの急変時に、自分で判断し動くことができませんでした。間質性肺炎を発症しNPPVを装着した状態でリハビリ開始となった時には「もういい」と否定的な言葉がありました。しかし、傾聴で「トイレに行けるようになりたい、回復して妻を支えたい」という希望を確認し、リハビリスタッフと介入を続け、前向きにリハビリに取り組めるまでになりました。この経験を今後の看護に生かしたいと思います。

**先輩からの応援メッセージ**

患者さんと信頼関係を築きながら看護力を向上させていることが素晴らしいです。いつもニコニコ笑顔ですが、余裕のない表情の時もありますね。これからも一緒に頑張りましょう。

**吉野Ns**



肺炎の患者さんを受け持ち、最初のラウンド時に意識レベルの低下があり、痛み刺激にも反応がなく、何をすべきか分からずに怖くなりました。立ち尽くす私の前で、先輩が動いてくれました。日頃からコミュニケーションを深め、患者さんの意識レベルを知っていれば、表情や言動の変化にいち早く気づけたかもしれません。日々の情報収集、多職種との情報共有を大切にし、患者さんが求めている看護を提供できるようになりたいと思っています。

**先輩からの応援メッセージ**

コールがなると「行きます！」と頑張ってくれていました。患者への丁寧な接し方は、私も学びたいと思ったほどです。どんな看護ができるかをこれからも考え続けてください。

**尾崎Ns**

心不全を繰り返している患者さんが入院時に「苦しいから死にたい」「自分で死ねないか試した」と話され驚きました。症状が落ち着くと退院を希望されましたが、主治医が「最後までしっかり治療しましょう」と説明し治療完了後に退院されました。患者さんはつらい症状が落ち着くと、生きる希望や家族とどう過ごしたいかを話してくれました。それをかなえるために何ができるかを考え、個々人に合った援助ができるようになりたいと思いました。

**先輩からの応援メッセージ**

主治医と相談したり、家族との面会時間を設けたりしながら、患者さんに合ったケアを実施できています。いつも丁寧なかかわりが、患者さんの安心につながっていると思います。

## HCU

**渋谷 Ns**

心不全と肺炎で低酸素血症になった患者さんを受け持ちました。認知症もあり、落ち着かないようすでした。入院前に暮らしていた施設でいつもテレビを見ていたという情報を得たので、テレビを見られるようにし、紙おむつに拒否感を示されたので尿瓶で対応しました。その後、落ち着きを取り戻したので、「元の生活に近づけるケア」が患者さんに良い影響を与えることを実感しました。入院前の生活背景や習慣の情報を得てケアに取り入れたいと思いました。

**先輩からの応援メッセージ**

患者さんの行動を制止するのではなく、観察や情報収集から環境整備するケアを実践・評価することができていました。周囲に自分の意見を伝えられるなど成長しています。

**前川 Ns**

がんの肺転移で外来緩和ケアに通院していた患者さんが脳梗塞で入院。片麻痺の障害が残り、回復期リハビリ病院へ転院することになりましたが、本人は「転院したくない」と訴えました。傾聴したところ「絶望し迷っている」「自宅に戻りたい」と本心を聞くことができました。私は転院を納得させることばかりを考えていたので、患者さんの本心に気づきませんでした。早めに患者さんや家族の思いを聞いて看護に反映させる大切さを確認しました。

**先輩からの応援メッセージ**

小さなことにも気づける視点を持っています。その長所を生かし、患者さんの希望を看護に反映させています。自分自身が求める看護を獲得しながら成長していると感じています。

## 3東病棟

**高野 Ns**

大腿骨骨折の患者さんにせん妄が出て、看護師を詐欺師と呼び、バイタル測定を拒否されました。指導者さんがゆっくり丁寧に、入院中であることを説明したところ落ち着きました。安心して治療を受けていただくためには、患者さんが理解できるように説明することが必要であると学びました。患者さんが意思を表出しやすいように、会話の際には目を見て笑顔で話すことを心がけ、退室前には「ほかにないですか」と聞くようにしています。

**先輩からの応援メッセージ**

いつも明るく元気で、患者さんと楽しそうに会話ができます。先輩の看護から学ぶこともできています。患者さんの目を見て表情をくみ取り、看護に生かす姿勢が素晴らしいです。

**佐藤 Ns**

腰の手術をした患者さんに手術直後から退院前まで関わりました。患者さんは安静が必要な時期に何度も起き上がろうとしたことから、指導者と一緒に予防策を考え、手元に置きたいものを聞き環境を整えました。入院前は布団を敷いて生活していたことを知り、腰に負担がかからない起き上がり方の指導をリハビリで行いました。患者さんの状態に合わせた毎日の看護をアセスメントし、患者さんと目標を共有し進めることができたと思います。

**先輩からの応援メッセージ**

患者さんの要望を聞き取り、必要なケアを提供できています。これからも、患者さんとのコミュニケーションを大切にしながら、すてきな笑顔のままで、頑張ってください。

**武田 Ns**

股関節を脱臼した患者さんの術後に、せん妄と認知症の症状が強く出ました。可動域制限がありましたが起き上がりが続いたので、先輩やケアワーカーさんに相談し、張り紙や対交枕を使ったケアを行い、起床できるまで回復しました。知識や経験を得て、医療と安全と患者さんの気持ちをすり合わせられる看護スキルが必要であることを学びました。患者さんとの日常会話を大切し、個別性のある看護を考えられるようになりたいと思います。

**先輩からの応援メッセージ**

先輩や先生に話しかけるのが苦手でしたが、スマートに話しかけられるようになりました。周りに気を配り、患者さんにも丁寧な声かけができています。自信を持ってください。

## 3東病棟

**藤井 Ns**

左大腿骨転子部骨折で手術した患者さんは、肺がんがあり余命半年と診断されていました。術後に血圧が下がり「体がこわい、胸や背中が痛い」との訴えがあり、医師から酸素投与や輸血の指示をもらい、先輩の指導を受けながら看護プランを立てました。輸血直後には会話ができるまで回復し、翌日には酸素投与なしで車いすに乗れるようになり、本人から「昨日は助かりました。リハビリを頑張ります」と前向きな言葉をいただきました。複雑な病態の術後リスクの学習を深めたいと思います。

**先輩からの応援メッセージ**

思いやりをもったケアは患者さんに伝わります。整形疾患があり呼吸状態が悪い患者さんを受け持った経験は、今後の看護に生かすことができると思います。応援しています。

## 4西病棟

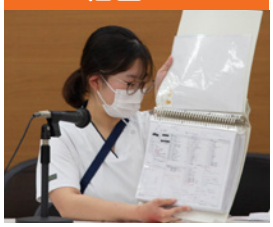
**浅井Ns**

胃がん術後１日目に点滴接続部を自分で２回外して血まみれになった患者さんを担当しました。治療内容や注意点を説明した時には、受け答えがしっかりしていたので、自己抜去時は戸惑いました。術後は長時間の点滴や体調変化などストレスが重なります。個々人の性格を把握して関わることが必要だと感じました。大切なことはその都度説明する時間を確保し、忙しさを見せずに丁寧に関わり、患者さんを理解し寄り添う看護を提供できるようになりたいと思います。

**先輩からの応援メッセージ**

患者さんの気持ちの変化や戸惑いの様子を捉えて、自分の身に置き換えて考えているようすに、成長を感じました。忙しくても「大丈夫です」と頑張ってくれています。

**福田Ns**



最初は「看護師は人生に関わる職業」であるとの自覚が足りず、処置業務で関わっていた患者さんが終末期を過ごしているとの認識がなく、亡くなった後に「もっと丁寧に看護すべきだった」と後悔しました。患者さんとの日々のコミュニケーションや会話を大切にし、会話できない場合でも丁寧に声かけをするなど、忙しくても患者さんの状態に合わせながら、適度な距離感で対応する看護を提供できるようになりたいと思っています。

**先輩からの応援メッセージ**

患者さんに丁寧に声かけし、目線を合わせた対応ができています。ときどきパニックになっていたけど、もう大丈夫。時間を見つけて患者さんと積極的に関わってください。

**渡辺Ns**

患者さんへの術前オリエンテーションでは緊張し、質問にも答えられず、指導者さんが対応してくれました。アドバイスを受けて自分専用の説明資料を作って学び直し、頭の中を整理しました。ベッドで散髪と洗髪を行った時は大変でしたが、患者さん自身に良かったと思ってもらいたいと考えながら実施し、感謝の言葉をいただきました。入院が患者の不利益にならないよう、観察したり会話しながら、必要な看護につなげることを心がけています。

**先輩からの応援メッセージ**

ベッドでの洗髪は学校で学んだ洗髪とは違ったと思いますが頑張りました。コミュニケーションは苦手ではなくなり、自分発信もできるようになりました。一緒に頑張りましょう。

**尾山Ns**

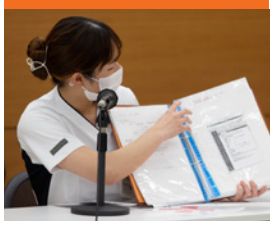
誤嚥性肺炎で入院していた患者さんが食事再開後に誤嚥性肺炎を再発。状態が悪くなる前の食事介助を私が担当した時は「おいしい」と食べていましたが、食物残渣がありました。日常生活の援助は病状を改善させる効果もありますが、悪化させることもあることを体験しました。看護師には「状態把握、苦痛解除」の役割があります。患者さんは、どんな病状なのか、何ができて何ができないのかにも着目した看護ができるようになりたいと思いました。

**先輩からの応援メッセージ**

事前にカルテを読んで、気をつける点を意識して患者さんと関わっていると聞いています。経験から得た学びを生かし、責任を持った対応の実践をこれからも続けてください。

## 5西病棟

**高橋Ns**



間質性肺炎の患者さんは血中酸素濃度が低下し寝たきり状態でしたが、頑張ってリハビリをしていました。改善しないことからHOT導入を検討しましたが、本人の意志でリハビリを続け、酸素オフまで回復し退院しました。この患者さんの姿を通し、患者さんの強みや能力を最大限に引き出して看護することも大事だと感じました。医療者は薬剤や装置に依存しがちですが、意識レベルやADLが低い場合でも前向きにケアすることを大切にしています。

**先輩からの応援メッセージ**

目に見えて成長しています。患者さんの頑張りに目を向けて、看護師としてどう支えていけるかを考えて頑張っています。2年目も、さらなる成長を期待しています。

**藤谷Ns**

ステロイド治療中の患者さんが口腔カンジダ症を発症し、口腔ケアが必要になりました。本人から「自分の習慣と違う、疲労が強くてできない」との訴えがあり看護計画を見直しました。拒否の理由を聞き取る中で、ケアが看護側の一方的なものだと気がつき、患者さんを中心に置いた看護を意識するようになりました。じっくりと会話する時間の確保が難しいからこそ、日頃から苦痛やつらさだけではなく人柄もくみ取る関わりを持ちたいと思います。

**先輩からの応援メッセージ**

これからも患者さんと積極的に関わり、笑顔を大切にした看護を今後も続けてください。自主学習も頑張っていると聞いていたので、さらなる成長を期待しています。

**遠嶋Ns**

糖尿病と腎不全で両下肢切断となっていた患者さんをベッドから車いすに移乗介助した時、スムーズにできず患者さんに負担をかけてしまいました。全介助の経験が浅かったので、PTさんやケアワーカーさんにアドバイスをもらいました。さらに、車いす移乗介助時には看護師視点で患者さんの体調や思いを観察し、必要なケアを判断できるようになりたいと思いました。患者さんが望む療養を提供できるように、日々意識し関わりたいと思います。

**先輩からの応援メッセージ**

経験や失敗から学び、患者さんを中心に捉えて、必要な看護を考えられるようになりました。いろいろな角度から捉えられるよう、先輩の力も借りてこれからも成長しましょう。

**髙橋Ns**

誤嚥性肺炎で入院していた筋ジストロフィー症の患者さんは自力喀痰が困難で、吸引が必要でした。患者さん自身が口腔内に指を入れて痰を取ろうとしていたことから、指導者さんと相談し口腔ケアを見直しました。STさんと一緒に患者さんに適した方法を考え、チーム内で情報を共有し看護を継続できました。患者さんの小さな行動や言葉から病状の変化やつらさを読み取り、その背景や原因を追求し、必要な看護を提供したいと思います。

**先輩からの応援メッセージ**

口腔ケアの重要性を理解しながら、STさんと一緒に調整したり、患者さんに合ったケアを実践しました。これからも患者さんが発した言動を大切にしたケアに取り組んでください。

## 手術室

**工藤 Ns**

手術室前室では不安な表情だった患者さんに、外回りの看護師が「私が術前訪問した看護師ですよ」と自己紹介すると、表情がぱっと明るくなり安心したようでした。術前訪問は「手術前に必要な説明や確認を行うことが目的」と考えていましたが、この時の患者さんのようすを見て、術前訪問で顔を合わせることが手術当日の患者さんの不安緩和につながると知りました。術前・術後訪問を活用しながら、個別性のあるケアを実践したいと思います。

**先輩からの応援メッセージ**

術前の患者さんには緊張や不安があり、緩和するためのケアの大切さに気づいたことが素晴らしいです。これからも焦らずに、一つ一つできることを増やし一緒に頑張りましょう。

## 5東病棟

**澤崎 Ns**

悪性リンパ腫の患者さんを受け持ち、内服介助時に行ったところ、「薬は飲みたくない」との発言がありました。理由を伺うと「良くなっていることが実感できない」「もう、治療を止めたい」と打ち明けてくれました。服薬拒否には、患者さんの深い思いや大きな不安が隠れていることを知りました。忙しい業務の中でも、患者さんの一言に耳を傾けて本当の思いを表出させ、患者さんの体調管理だけでなく精神的な面もサポートしたいと思いました。

**先輩からの応援メッセージ**

患者さんの背景を捉え考えて、気持ちを引き出して関わることは、看護師として大事な視点です。最初は緊張がなかなか取れませんでしたが、看護師として立派に成長しています。

**惣谷 Ns**

抗がん剤治療中の患者さんに味覚障害が出て、食事が摂取できない状態になりました。多職種で関わり、食形態やメニューを変えるなどの工夫をしたところ、食欲が回復しました。また、患者さんの「施設に戻りたい」という思いを聞き、「点滴を外す」ことを目標にして頑張り実現しました。患者さんの本当の願いや思いを目標にして一緒に頑張ることが、その患者さんに合った看護につながりました。看護師だからできる援助をしたいと思います。

**先輩からの応援メッセージ**

本人の嗜好を聞いたり、医師や栄養士と調整しながら関わりました。患者さんの変化を「なんでかな？」と感じられるところが強み。明るいし体も丈夫。一緒に頑張りましょう。

**石窪 Ns**

悪性リンパ腫の患者さんから、３クール目の抗がん剤治療前に「今日は何をするの？昨日の薬は何だったの？　体調はどうなるの？」と質問を受けました。90代ですが会話もしっかりしており、治療回数も重ねているので理解されていると思っていましたが、そうではないこともあると思い直しました。治療は患者さん一人が背負うものでも、医療者が一方的に提供するものでもないので、いろいろな視点からサポートできるようになりたいです。

**先輩からの応援メッセージ**

患者さんの苦痛や不安を捉えて、自分にできる看護を考えることができます。今回の学びを今後に生かして、患者さんの不安を想像し、心に寄り添える看護師に成長してください。

## ICU

**千葉 Ns**

一般病棟から人工呼吸器を装着してICUに入室した患者さんにせん妄の症状が出始めたため、対処方法を考えました。家族の写真を見ると嬉しそうなようすがあったので、スマホを使ったビデオ通話を提案し実施したところ、表情が穏やかになり落ち着きました。家族の存在が精神的な支えになることを実感しました。患者さんや家族が感じる苦痛を捉えて、その解決策を一緒に考える時間を共有し、信頼関係を築きながら看護を提供したいです。

**先輩からの応援メッセージ**

患者さんをしっかり観察し話を聞き、一緒に考えてあげられるところが長所。ゴールは一つでもアプローチはさまざま。先輩を頼りながら自分なりの看護を見つけ実践しましょう。